

知的障がい学級（なごみ1組）

自立活動 学習構想案

日 時 令和7年7月15日（火）第1校時

場 所 なごみ1組教室

指導者 教諭 宮川 知子

1 単元構想

単元名	つくってそなえようだいさくせん（2 心理的な安定（2）状況の理解と変化への対応に関すること 5 身体の動き（5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること）		
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
身近な材料を使って災害時に役立つものを作る方法を理解し、もしものときにも自分にできることを考えて、落ち着いて行動しようとする児童			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
もしものときにそなえて、どんなものがつくれるといいのだろう。		自然災害が日常生活にどのような影響を及ぼすかに着目し、自分でもできることに取り組もうという考えをもつ。	

2 本時の学習

(1) 全体目標 断水時に紙の食器が役立つことを理解し、自分で作ったり使ったりすることができる。

(2) 個別目標

児童	本時の個別目標
R児（2年）	断水時に紙の食器が役立つことを理解し、教師の支援を受けながら自分で作ったり使ったりすることができる。
S児（3年）	断水時に紙の食器が役立つことを理解し、手本や説明を基に自分で作ったり使ったりすることができる。

(3) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)	
導入	5分	1 本時のめあてを確かめる。	R児 ○単元の流れを示した図を見て学習内容を理解させる。	S児 ○発問や指示を最後まで聞いて考えるようにする。
		【めあて】水が出ないときにやくにたつものをつくって、つかってみよう。		
展開	35分	2 学習課題を知る。 【学習課題】 水が出なくなった時にそなえて、どんなものがあるといいのかな。	○絵を手掛かりに考えさせる ○紙食器の実物を提示する。	○食べ物や飲み物があっても、食器を洗うことができないことに気付くようにする。
		3 課題の解決に向けて活動する。 ①紙食器を見て作り方を確かめて、自分で作る。 ②実際に使って、良い点や改善点を考える。 （共通実践事項1） ③もう一度作ったり他の物を作ったりする。 （共通実践事項2） 【期待される学びの姿】 進んで制作活動に取り組んだり使ったりしながら、自分が作ったものが断水時に役に立つということに気付いている。	○教師の作る動きに合わせてできるようにする。 ○諦めず最後まで作り上げることができるよう支援する。 【具体的評価基準】 ○断水時に紙の食器が役立つことを理解し、教師の支援を受けながら自分で紙食器を作ったり使ったりしている。 (方法：作品、発言) 【到達していない場合の手立て】 必要に応じて教師と一緒に制作する。	○説明をよく見て聞いて、できるだけ自分で作ることができるようにする。 ○色々試しながら、考えたことを進んで話せるよう支援する。 【具体的評価基準】 ○断水時に紙の食器が役立つことを理解し、手本や説明を基に自分で紙食器を作ったり使ったりしている。 (方法：作品、発言) 【到達していない場合の手立て】 手本をよく見たり説明を最後まで聞いたりするよう指導する。
終末	5分	3 学習を振り返る。 ①今日の振り返りをする。（共通実践事項3） ②次時は、避難所で使える物を作ることを知る。	○振り返りの視点①、④ ○避難所で役立つものも、これまでの学習を生かして作れるのではないかと投げかける。	

3 指導に当たっての留意点

【視点1】「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫」

手立て2：子供が問いをもち、主体的に学ぼうとするための資料提示や課題設定の工夫

○紙食器の実物や作り方の図・写真を提示し、制作の見通しと意欲をもてるようにする。